

大学発スタートアップマガジン



とっきんとっきん vol.2

2021



新型コロナウイルスの影響を受けて"新しい生活様式"が提唱された2020年。

当たり前だったことが当たり前でなくなり、我々の暮らしと価値観は大きく変わった。

この大きな変化の中から、何かが生まれる期待と不安が交錯するであろう2021年。

大学発の技術とアイデアが人々の幸せに繋がり、地球環境が抱える課題に挑み、快適な生活を生み出すことを願う。

その技術はまだ産声を上げたばかりかもしれない。

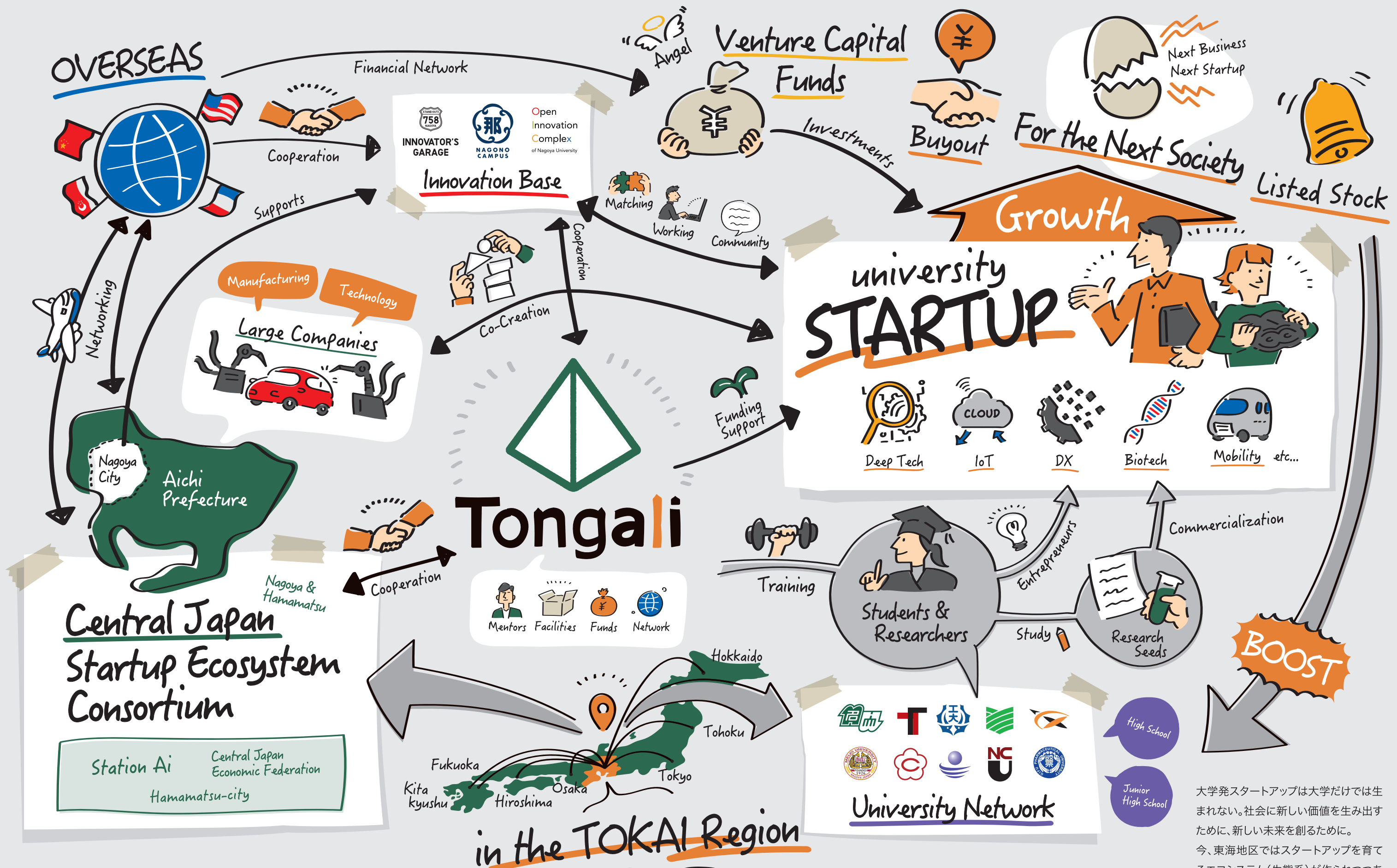
そのアイデアは非現実的だと思われるかもしれない。

しかし、未来に続く確かな一歩である。

"とっきんとっきん"vol.2は、生まれたばかりの技術やアイデアを育てるためのスタートアップエコシステムを特集する。

INDEX

STARTUP ECOSYSTEM	03
PROJECT	05
MEMBERS	08
名古屋大学／豊橋技術科学大学	09
名古屋工業大学／岐阜大学	10
三重大学／名城大学	11
中京大学／藤田医科大学	12
名古屋市立大学／岐阜薬科大学	13
INCUBATION	14
SUPPORTERS	15
STARTUPS' INTERVIEW	19
KNOCK-KNOCK STARTUPS	23



STARTUP ECOSYSTEM

大学発スタートアップは大学だけでは生まれにくい。社会に新しい価値を生み出すために、新しい未来を創るために。

今、東海地区ではスタートアップを育てるエコシステム(生態系)が作られつつある。ものづくり産業の集積地として発展してきた東海地区。100年に一度と言われる変革の時期に、大学を中心としたスタートアップに期待が寄せられている。

PROJECT

東海地区大学発 スタートアップの現在地

東海地区で活動する、大学発スタートアップを支援する2つの動き
「Tongaliプロジェクト」と「名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャー
ファンド」にフォーカスし、その取り巻く環境を紹介する。

Startup is Here.

PROJECT 01.



アイデア× テクノロジーで 未来をつくる。

東海地区の5大学が連携して取り組んだアントレプレナーシップ教育は、何から手を付けてよいか分からない状態からのスタートだった。あれからはや5年、Tongaliプロジェクトは「アイデア×テクノロジーで未来をつくる」をVisionに掲げ、これからも進化を続けていこう。近い将来、世界をアツと言わせる人材、技術のために！

Tongaliプロジェクトの歩み

2015

11月 東海地区5大学のアントレプレナーシップ教育
実施に向けて密談開始。



2016

3月 Tongaliのコンセプトを発表。産声を上げる！
7月 第1回Tongaliシンポジウムを開催。まずは一歩。

2017

7月 文部科学省EDGE-NEXTに採択。5大学がヨチヨチ歩き。

2018

7月 大阪大学が協力機関に。友達ができた！

2019

6月 名城大学が連携機関に。
Tongaliが増えた。



8月 熊本大学が協力機関に。友達2人目です！

10月 中京大学が連携機関に。
またTongaliが増えた！



2020

3月 藤田医科大学が連携機関に。
Tongali8人目！



4月 名古屋市立大学が連携機関に。
Tongali9人目誕生。



10月 岐阜薬科大学が連携機関に。

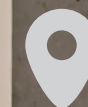


Tongaliが10大学に！

<https://tongali.net/>



Startup is Here.



PROJECT 02.

名古屋大学・
東海地区大学広域
ベンチャーファンド

東海地区で、
大学発スタートアップの
躍進が目覚ましい。

2020年11月に開催された『CNBベンチャー大賞2020』の大賞を、がんの免疫療法を開発する三重大・京都大発ベンチャー「ユナイテッド・イミュニティ」が受賞した。同コンテストでは、名古屋大・名古屋工業大発ベンチャー「Acompany」が中部経済産業局長賞を、名古屋大発ベンチャー「iCorNet研究所」と名古屋工業大学発ベンチャー「AGREEBIT」が優秀賞を受賞した。

自身の閃きを、社会における価値に繋げるのは容易でない。とりわけ研究成果を自らの手で市場まで繋げるには、いくつかの壁が存在する。しかしながら、近年、学生・研究者・教員によるスタートアップが増加し、地域における存在感を増している。

2016年に“名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンド”が設立され、1号ファンド(日本ベンチャーキャピタル株式会社ノ

総額25億円)、2号ファンド(Beyond Next Ventures株式会社ノ総額20億円規模)によって、この地域の大学発スタートアップのドライブが加速した。

また、起業前のPoC(概念実証)を固めるステージでは、GAPファンド“スタートアップ準備資金”が創設され、5年間で49チームが採択され、16社が起業した。大学ではその他に、インキュベーション施設、大学発ベンチャー称号授与、ベンチャーズトーク(スタートアップと金融関係者の交流会)や各種ピッチ・セミナー・支援事業など、ステージに合わせたインキュベーションプログラムが運営される。

新たな時代に挑戦する大学発スタートアップは、着実に前進している。社会も、大学も、移ろいゆく時代の中で彼らとどう向き合うかが、強く問われ続けている。

アントレプレナー教育
起業支援の最前線



Tongaliプロジェクトに参画する東海地区の10大学では、それぞれに特色あるアントレプレナー教育、起業支援が行われている。その現場では今、何が行われているのか。何がはじまっているのか。変化と激動の2020年。各大学の取り組み、その最前線を聞いた。

09 名古屋大学

09 豊橋技術科学大学

10 名古屋工業大学

10 岐阜大学

11 三重大学

11 名城大学

12 中京大学

12 藤田医科大学

13 名古屋市立大学

13 岐阜薬科大学

Startup is Here.



Nagoya University

名古屋大学

アイデア × テクノロジーで 未来にチャレンジする学校

名古屋大学はTongaliプロジェクトの主幹大学として、年間を通じた起業家教育プログラムを実施している。

春に開催するTongaliシンポジウムで、起業という選択肢があることを知り、TongaliスクールIでは、デザイン思考を用いたアイデア創出を体験する。スクールIIでは、起業家の体験談に触れたり、税務など専門知識を学べ、スクールIIIでは、温めたアイデアをビジネスモデルに構築していく。

このほかに、年2回コンテスト(アイデアピッチコンテストとビジネスプランコンテスト)を実施しており、学生たちは自分たちのステージに合った方に出場し、審査員・聴衆の前でピッチを披露する。優秀チームには活動支援金が送られるほか、サポーター企業から賞が贈られ、それらを基に、ビジネスモデルをさらにブラッシュアップしていく。

また、大学の長期休暇中には、海外研修や社会起業家研修なども開催している。年間を通じたTongaliプロジェクトの参加者は、約300名。今後も参加者のすそ野拡大と、本気で起業を目指す学生へのサポートを強化していく予定である。

名古屋大学

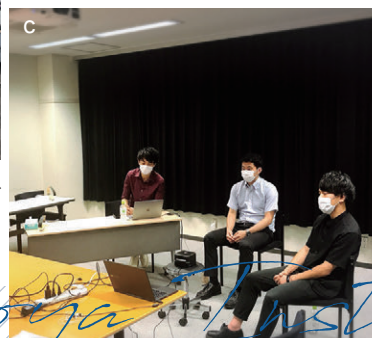


A. ビジネスプランコンテストの集合写真/B. スクールIII ビジネス構築ワークショップ/C. スクールII Tチャンセミナーシリーズ

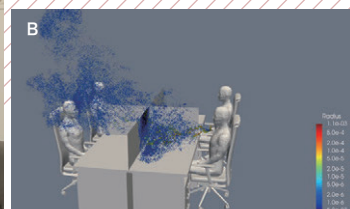


A. 起業同好会NaSH/B. 開設した共創スペース/C. アントレプレナー育成塾(オンライン配信)

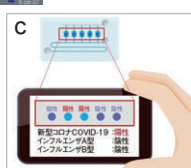
国立大学法人
名古屋工業大学



Nagoya Institute of Technology



A. 強み発見ワーク/B. 新型コロナウイルス飛沫シミュレーション/C. 革新的コロナ検査デバイス



豊橋技術科学大学

参加すれば何かが変わる！ 技科大のアントレプレナーシップ教育

国立大学法人
豊橋技術科学大学

本学では、大学の技術シーズを基にした起業や新事業創出に挑戦する人材の育成をより一層強力に推進するため、2020年4月に新たに「アントレプレナーシップ教育推進室」を設置した。また、本推進室において学生構成員を配置し、ニーズも含め学生視点の考えや要望もプログラムに反映させている。

2020年度の新たな取り組みとして、アントレプレナーシップ入門として、強み発見等の自己分析や将来像をイメージしながら行動力を養うための取り組みも開始し、EDGE-NEXT等のプログラムへステップ

アップしやすい環境整備や個人のスキルアップ支援体制も整えている。本学は工学系単科大学であるが、新型コロナ対策に挑戦・貢献する研究も活発に行われている。テレビ等で取り上げられているウイルス飛沫シミュレーションや革新的コロナ検査デバイスの開発が代表的な取り組みである。中でも、開発中のコロナ検査デバイスは、他の分野への展開も容易であり、ユーザーとなる農業・食品・感染症関係者から早期の起業に期待が寄せられている。



岐阜から世界へ、下剋上魂で 新たな未来を斬り拓け!!

長らくスタートアップ不毛の地と呼ばれてきた東海地域にあって、とりわけ岐阜県は起業風土の乏しい地域である。そこに立地する岐阜大学では、近年、起業家育成プログラムや大学発スタートアップ支援体制を強化したことに伴い、学生及び教職員の起業家マインドが向上し、岐阜大学発スタートアップ企業の設立数や起業相談件数が急増している。

2020年度には、中部地方で初となる大学公認の『起業部』を創設、また主に学部1年生を対象とした起業関連授業(教養授業)を新たに開講するなど、起業家育成プログラムの更なる充実化に取り組んでいる。特に、起業部では、起業やビジネス創出への関心や意欲を高め、起業家精神溢れる人材を地域社会に輩出することを目的としており、既に全学から集った十数名の学生が周囲や地域を巻き込みながら活発に活動している。

今後は、Tongali参画大学とこれまで以上に協働しながら独自の起業家創出システムを構築し、起業風土の更なる醸成、地域経済の活性化および新産業創出、そしてスタートアップエコシステムの構築に寄与していく。



A. 中部地方初! 大学公認の起業部を創設/B. 学部1年生対象の起業関連授業「アントレプレナーシップ入門」の受講生の皆さん/C. 院生400名対象の起業関連授業(対面・Webそれぞれ200名)/D. 岐阜県全学生対象の「ぎふビジネスアイデアコンテスト」を開催/E. 起業部ミーティング

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Toyohashi University of Technology

Gifu University

Mie University

三重大学 コロナに負けず三重大生も頑張っています！

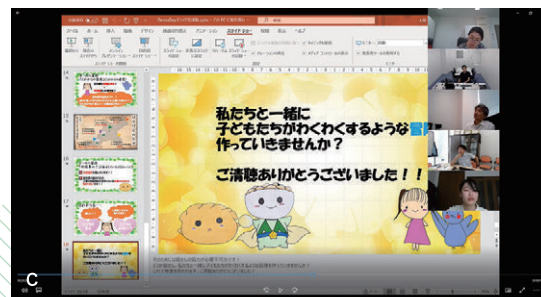
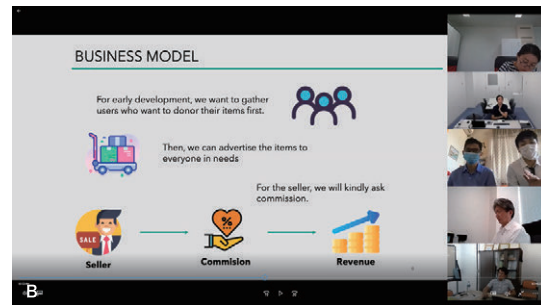
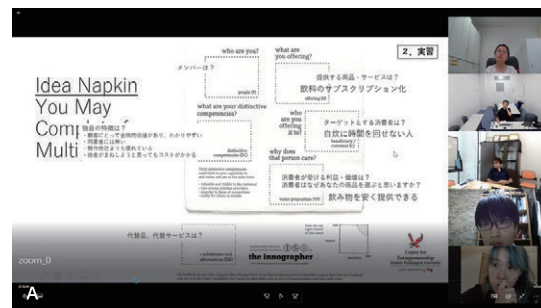
三重大学でも新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年4月から授業やセミナー関連はすべてオンラインとなった。そのような状況下で、2017年度から毎年恒例となった「学生アイデアブラッシュアップ支援」、「アントレプレナーシップセミナー」等の企画も開催方法や内容を変更しながら実施している。

「学生アイデアブラッシュアップ支援」は、学生からビジネスアイデアを募集し、審査を通過したチームには活動助成金とメンターが付いてのブラッシュアップ支援を行っている。ビジネスアイデアの具現化に向けて、内容のブラッシュアップはもちろん、コロナ禍でどのように実施するか、学生と一緒に考え取組んでいる。3月には試作品やビジネスプラン等を企業関係者に披露したい学生を集め、三重大学版DemoDayもオンラインで開催予定である。

三重大学の起業実績はTongaliの他大学と比べると多くないが、学生の起業事例は早くからあり、1999年～2004年頃には10社の起業があった。そのうち5社が卒業生または在学生等の学生が関与した案件である。三重大学のアントレプレナー育成の取り組みは、それらの事例も積み重ねて現在に至っており、学内の産学連携・知的財産の関連部署に所属の実務経験豊富な教員が中心となり、コロナの影響に負けず積極的に推進されている。

A.Tongaliアイデアピッチコンテストを目指す学生のための強化塾(2020年8月～9月実施) / B.学生アイデアブラッシュアップ審査会(2020年8月実施) / C.学生アイデアブラッシュアップ審査会(2020年8月実施)

国立大学法人
三重大学



中京大学

アントレプレナーシップの醸成を目指して

中京大学は、2019年度にTongaliプロジェクトへ参画し、これまで、特定の学部によらず、多くの学生が、Tongaliプロジェクトが主催する各種イベントに自らの意思で積極的に参加してきた。ビジネスプランコンテストやアイディアピッチコンテストでは、その提案内容が認められ、受賞まで至るチームも多く存在している。また、Tongaliスクールやリーンローンチパッドといったアントレプレナーシップ教育についても、参加した学生からは非常に有意義な経験をする事ができたという声を多数もらっている。

本学では、学生がこのような経験を通じた、起業家あるいは企業人に必要なアントレプレナーシップの醸成を図り、社会に出るにあたっての選択肢を広げてもらうことを重要と考え、これからは多くの学生に対しTongaliプロジェクトへの参加を促していく共に、それらに参加する学生の取組みについての広報活動や本学独自で実施してためのアントレプレナーへの支援プログラムの検討等を進めていく。

A.アイディアピッチコンテストにて登壇/B.リーンローンチパッドの仲間と / C.ビジネスプランコンテストでのプレゼン/D.Tongaliスクールの受講

中京大学
CHUKYO UNIVERSITY

Chukyo University

名城大学

ありたい未来を自分で創るwill、 それを叶える手段・仲間との出会い

名城大学社会連携センターは、産学官連携でアントレプレナー人材育成に取り組んでいる。企業や自治体、プロスポーツチーム等からの連携ニーズに対応し、リーダーシップ開発、デザイン思考を活用した新事業開発ワークショップ、社会課題をテーマにしたフューチャーセッションや産学官連携プロジェクト等を正課内外で多数実施。経営、経済、心理、ロボット、プログラミング、建築、農学等を学ぶ多様な学生とつなぐ。ヤフーと連携した「HackU名城大学」は文理融合チームでアイデアを考えエンジニアがカタチにする人気プログラム。参加学生は全国大会で優勝するなど活躍している。



A.MEIJO STARTUP CLUB/B.shakeアクセラレーションプログラム「DRAFT」 / C.社会をフィールドにした実践型プログラム「IMPACT」/ D.HackU名城大学



「社会連携ゾーンshake」を起点に多様な人が集うオープンな場で、共創による価値創造に取り組む。コロナ下でも、起業に関心のある学生コミュニティ「MEIJO STARTUP CLUB」や、何かに挑戦したいU35の若者が想いを言葉にしカタチにするshakeアクセラレーションプログラム「DRAFT」をオンラインで実施。切削琢磨できる仲間、メンター等との出会いの機会を作り、ビジネスアイデアや想いの実現をサポートする。

名城大学

Meijo University

Fujita Health University

藤田医科大学

最先端医療と独創的な チャレンジを支える起業家支援体制

本学では、産学連携推進センターが主体となり、最先端医療技術の社会実装に向けて、本学独自、もしくは産学連携により創出された研究成果や技術・ノウハウを活用するプロジェクトを推進している。創薬・診断薬の開発やAIなどを活用した様々な共同研究等、後押しし、本学の知的財産を基盤に創業したバイオベンチャーに対し事業化支援を行っている。また、本学発ベンチャー企業を育成する共用施設として、学内にインキュベーションラボを新設し、運営を行っている。起業家教育では、大学院の履修科目「アントレプレナーシップ概論」を設置。講義内容は、医療系大学の強みを生かした医療機器のマネジメントから、医工連携を視野に入れたメディカルエンジニアリング、市場動向、資金調達まで、多岐に渡る。担当教員は、起業経験を有する産学連携推進センター所属教員の他、外部からも医療系ベンチャー起業家を複数招き、経営の最前線を学ぶ機会を提供している。講義は学内配信され、学生のみならず、研究者・教職員・病院医師等へもオンライン学習の機会を提供している。

A.アントレプレナーシップ講義/B.大学院生のグループワーク/C.株式会社HIMO(ハイモ)山下社長による講義(豊明キャンパス)/D.株式会社CYBO(サイボ)新田社長による講義(オンライン授業)



名古屋市立大学

やる者がやる時に！ 名市大は未来デザインを応援します

名古屋市立大学では、「起業家(アントレプレナー)」を、会社を立ち上げる人に限定した言葉ではなく、グローバルからローカルまでのあらゆる課題解決のために、企業での新規事業創出や自治体・NPO等での非営利活動等に取り組む「自らを起こす人」=「**新しい価値を創出し実践する人**」と捉え、このような人物を育成するべく「起業家(アントレプレナー)」に共通したマインドやスキルを体験型で学ぶ授業等を提供している。



A~C.NCU Action Doors for Students/
D.名古屋市立大学校山キャンパス

全学部の学生が受講できる講義「起業家になる」では、「なぜアントレプレナーシップが必要なのか」などキャリア支援の要素も交えた授業を展開する。2か月間にわたり展開するブラッシュアップ・セミナー「NCU Action Doors for Students」では、学生同士切磋琢磨しながらアイデアをビジネスプランにまで昇華させる。また、ボード型ビジネスゲームを使って、予期せぬ変化が生じる環境で持続可能な経営に挑戦するワークショップを開催する。

今後は、学生の要望も踏まえた様々なスタートアップ支援を加え、「**新しい価値を創出し実践する**」人材を育成していく。

岐阜薬科大学

共同研究等を通じて、実践的なイノベーション戦略の修得を目指す

岐阜薬科大学では、「教育」「研究」「社会貢献」を大学の3つの柱として、長きにわたり地域産業の発展と地域医療に貢献できる高度な人材を輩出している。

教育ビジョン

専門的かつ幅広い知識とともに、課題発見・問題解決能力を有する自立した人材を育成するため、ベンチャー企業経営者による講義を行い、起業に関する実践的なノウハウ修得に取り組んでいる。

研究ビジョン

シーズ発掘から付加価値の創生に至るまでの研究を支援するとともに、研究開発マインドを持った若い人材を育成するため、共同研究等を通じて、ベンチャー企業のイノベーション戦略修得を目指している。

社会貢献ビジョン

大学のシーズと地域産業界のニーズを融合・協働し、イノベーションを創出する等、地方創生に向け、ベンチャー企業との産官学連携を推進している。

今後は、ベンチャー企業の経営者による講演を企画し、アントレプレナーシップの醸成等に取り組むことで、産官学の連携によるイノベーションの創出を図り、地域経済の活性化に寄与していく。

A.講義の様子/B.研究開発マインドを持った若い人材の育成/C.講義の様子/D.研究開発マインドを持った若い人材の育成/E.薬局での実習



岐阜薬科大学



INCUBATION

スタートアップが生まれる・育つ場

名古屋市内、特に名古屋駅前には、Tongaliプロジェクトとも連携した2つのインキュベーション施設が運営されている。スタートアップが育つ土壌が大学外に広がっている。



なごのキャンパス
NAGONO CAMPUS

ひらく、まぜる、うまれる
次の100年を育てる学校

名古屋駅前徒歩8分の廃校となった小学校をリノベーションしたインキュベーション施設『なごのキャンパス』が2019年10月に誕生。オフィスやコワーキングスペースなど企業規模に応じたスペースを完備し、事業相談やメンタリング、定期的なイベントの開催も行っている。社会課題の解決・新しいコト・モノの創造を目的とした起業家やスタートアップが多数入居しており、次の100年を担う企業の輩出を目指す。



なごのキャンパス

愛知県名古屋市西区那古野2丁目14-1
<https://nagono-campus.jp/>



OICX of Nagoya University
名古屋大学オープンイノベーション拠点

価値ある研究が世界を
アップデートする場

OICX(名古屋大学オープンイノベーション拠点)は産学官連携の拠点・玄関口として、2017年に名古屋駅直結のJRゲートタワー内に設置された。自動運転などのディープテック領域から、プラットフォーム・サービス系スタートアップまで、名古屋大学を中心とした様々なジャンルの大学発ベンチャーが入居するインキュベーション施設である。



OICX 名古屋大学オープンイノベーション拠点

愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 JRゲートタワー27階
<https://oicx.jp/>





SUPPORTERS

Tongaliプロジェクト及び東海地区の
スタートアップ育成をサポートされてい
る方々を紹介する。また後半では、
Beyond Next Ventures株式会社
金丸氏、株式会社ミライブプロジェクト
牧野氏にインタビューを行い、このエリ
アから生まれるスタートアップに寄せる
期待を語っていただいた。

16…Tongali プロジェクトサポーターズ

17…Interview01.

名古屋のスタートアップに寄せる期待

Beyond Next Ventures 株式会社 マネージャー
金丸 将宏 氏

18…Interview02.

世界に輝くスタートアップ企業を

名古屋大学 客員教授
株式会社ミライブプロジェクト 代表
牧野 隆広 氏



Tongali プロジェクトサポーター

Supporters

SUPPORTERS

(敬称略、2020年12月現在)



日比野 三吉彦



過去のサポーター (敬称略、五十音順)

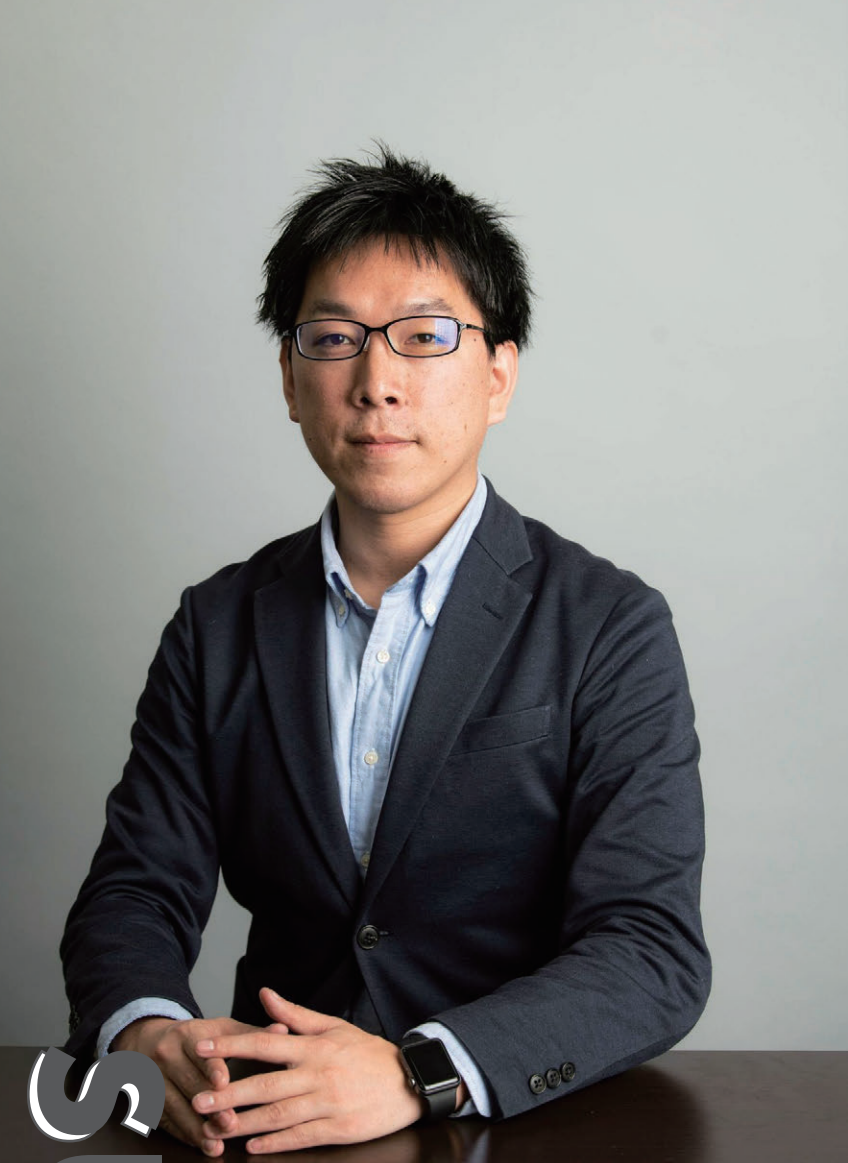
ICDAホールディングス株式会社、株式会社ABEJA、岡谷鋼機株式会社、株式会社スタッフブリッジ、株式会社大広、中京テレビ放送株式会社、株式会社テクノプロ テクノプロ・R&D社、ネットワンシステムズ株式会社、松井常芳(株式会社スタメン 常勤監査役)、株式会社マルエム商会、山内英一

ご協賛のお願い

東海地区におけるスタートアップ・エコシステムの基盤形成を目標として、研究・教育成果の事業化・実用化を目指した大学発ベンチャー育成プログラムを企画・実施しております。是非とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特 典	プラチナ サポーター	ゴールド サポーター	シルバー サポーター	ブロンズ サポーター	エンジェル サポーター
	200万円以上	100万円	50万円	10万円	1万円
コンテストご招待	●	●	●	●	●
Tongaliオリジナルグッズ贈呈					●
公式WEB、情報誌でのロゴの掲載				●	
アイデアピッチコンテストへの賞提供、予選会ご招待			●		
ビジネスプランコンテストへの賞提供、予選会ご招待					
企業カタログ設置等					
有料スクール・学生限定セミナーご招待					
情報誌への特集記事の掲載		●			
テーマ持ち込み型ワークショップ実施					
運営委員会参加	●				



INTERVIEW.01

Beyond Next Ventures株式会社 マネージャー 金丸 将宏 氏

Beyond Next Ventures株式会社とは？
意欲的な起業家の可能性を革新的な技術で成長させ、アイデアの商業化と活用を目指している。技術系の起業家の支援をコアとし、技術シーズの段階から大学や各省庁、専門家、投資家、事業会社など、さまざまなネットワークを活かして事業化を行う、新産業創造のプラットフォームである。



名古屋の スタートアップに 寄せる期待

―さまざまな技術系のスタートアップを創業前から支援しているとのことですが、名古屋で現在携わっている会社を教えてください。

金丸：現在は、「半導体フォトカソード技術」をコアにしているPhoto electron Soul、次世代の農・食の創造を目指すグランドグリーン、そしてイベントのサブスクリプションサービスSonoligoの3社に携わっています。それぞれ優秀な人材やソーシャルインパクトが大きい商品・サービスを考案している企業です。

―東京ではなく、名古屋のスタートアップにも注力している理由はどこにありますか？

金丸：起業家育成プロジェクトであるTongaliは、他のエリアと比較しても群を抜いて優れていますし、レベルの高い人材も多く見られます。名古屋の若い世代の起業家たちが大学をも巻き込んで頑張っている姿に心を打たれ、支援を決めました。

―そのTongaliで現在金丸さんはどのような活動をされていますか？

金丸：イベントでのメンタリングと、事業発表会での審査が主ですね。学生チームと面談し、出資が決まってからも随時コミュニケーションを取るようにしています。創業後はもちろんですが、起業する前から伴走者として、さまざまな視点でアドバイスをしています。

―最後に、今後のTongaliに期待していることを教えてください。

金丸：後輩や顧問へのアドバイスやサポートをしながら、メンターとしてつながりのネットワークを継続して広げていきたいと考えています。Tongaliの「1エコシステム、1ファクター」として関わるのができたらとてもうれしいですね。

世界に輝く スタートアップ企業を 名古屋から

―世界に目を向けることがやはり大切ですか？

牧野：はい。世界中から起業家や投資家を名古屋に呼びこみ、逆に名古屋の起業家や投資家は東京や世界に目を向けるべきです。それが将来、「世界に輝く中京エリア」を育てると信じています。事業成功のノウハウに長けた世界中の人たちから、名古屋がウォッチされる潮流を興すのです。

―どの分野が有望でしょうか？

牧野：中京エリアはモノづくりのメッカであり日本の中心。その背景を利用したハードウェアや最先端テクノロジー、ディープテック系のスタートアップに向くと思います。

―そのために、あったらいいと思う支援のアイデアを教えてください。

牧野：「製造装置をシェアして使えるコ・ワーキング・ラボ」のようなものや、「実験のたびに床を水洗いできるウエット・ラボ」「製品を運ぶトラックが乗り入れ可能なインキュベーション施設」などですね。また、実務面を支えるメンターも必要です。その人たちが、実際にグローバル市場や競合を相手に試行錯誤を重ねてきた自動車産業など大手メーカーのOB・OGなら心強いのではないのでしょうか。こういう支援こそ、この地域に親和性が高いと思います。

―Tongaliがストリームを起こすことも期待されますね。

牧野：もちろんです。そのために、プロジェクトの魅力をもっと宣伝していかなくてはと思いますよ。内部チームが裏方のようにならず、自分たちそのものにスポットライトを当てて、多方面の人たちから注目されるように露出していくべきだと強く思います。そのために、私もできる限りの応援をしていくつもりです。



INTERVIEW.02

名古屋大学 客員教授 株式会社ミライプロジェクト 代表 牧野 隆広 氏

株式会社ミライプロジェクトとは？
ミライプロジェクトは社会性を重視した介護・看護事業およびスタートアップ支援を軸に、収益性を重視した投資事業も並行して行う企業。未来の日本に貢献することを目的とする活動が多方面から注目を受けている。



STARTUPS' INTERVIEW

自身の研究を突き詰め、起業という形に昇華させた3組の起業家たち。研究分野も世代も異なる3組に、起業に至った経緯、今後の展望について語っていただいた。

CASE 1 NAOZUMI HARADA



CASE 2 AOYAMA DAIGAKU



CASE 3 KEISUKE KITAGAWA



CASE 1

僕の人生を賭けて、 誰かの役に立てる医薬品の開発を。

—では始めに、事業内容について教えていただけますか。

がん免疫療法を中心とする医薬品の研究開発を行っています。ナノテクノロジー応用技術を活用し、従来の治療で効果が得られなかった難治性のがんの克服ができることを目指しています。また最近、新型コロナウイルスのワクチン開発にも身を乗り出しました。がん治療薬開発のために使用しているナノサイズのカプセルが、同じように応用できるのではと考えています。

—医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)に採択されるなど、注目を集めていらっしゃいますね。医薬品開発の分野に進むことになったきっかけは何でしょうか？

子どもの頃からものづくりが好きで、“何かつくるなら、人の役に立っていると実感できることがしたい”と思っていました。その中で医薬品開発の道を選んだのは、幼い頃に病気をした経験が多かったからかもしれません。化学系の製薬メーカーに就職し、運よく医薬品の開発に携われるチャンスが巡ってきました。この業界はそもそも、「人生に1つでも実現化される医薬品を生み出せたら御の字」と言われるような、厳しい業界です。いくら研究開発を頑張ったとしても、自分の携わった医薬品が日の目を浴びずに終わることの方が圧倒的に多い。だからこそ、せっかくなら難病と言われ、困っている人が多いがんや神経系の病気に挑みたいと考えました。そして当時勤めていた会社と相談し、がん治療を研究することになりました。

—会社に勤めていらっしゃったところから、起業に至った経緯を聞かせてください。

これは本当に、人のご縁ですね。最初にいた会社から転職してしばらく経った頃、勤めていた会社で研究所を閉じることが決まったんです。自分としては、研究を進めていく中で方向性が見えていたし、ここで諦めたくはなかった。その想いを知人に相

医薬品の研究開発に日夜没頭し、主にかん治療の分野で人を救うことを目指すユナイテッド・イミュニティ株式会社代表の原田さん。起業に至った経緯や今後の目標、起業を志す学生へのメッセージについて伺った。

談したところ、三重大学で教員をしながら研究を続けたらどうかと助言をもらいました。そして、研究開発を推し進めるため、会社という形をとることになりました。

—一形になるまで長い道のりだと思いますが、研究を続けるモチベーションは何ですか？また、今後の目標についても教えてください。

実用化される医薬品が人生に1つあるかないかだと言うと、確かに遠いゴールに感じるかもしれませんが、その辛さよりも、新しい発見ができた時の喜び・やりがいの方が格段に大きいんですよ。それから、ここまで多くの方に支援していただいて、事業としても大きくしてきたので、“絶対に結果を出さねば”という責任感もありますね。起業家として活動する中で、より良い医薬品を開発し、悩みを抱える人を救いたい、という思いが日増しに強くなっています。今後も日々の小さな発見を大切にしながら、1日でも早く、病気に苦しむ方の力になれる医薬品を世の中に出したいですね。

—最後に、起業を目指す学生へのメッセージをお願いします。

起業というと研究力や技術を重視しがちですが、大切なことは“人を思いやり、見抜く力”だと考えています。自分一人ですることには限界がありますし、プロジェクトを完成させるためには、多くの人の力やアイデアを借りる必要があります。関わる人を大切に、その人に適した仕事を任せることも、起業家においては大切な素質。そういった力を養っていけると良いですね。それから、新しい人との出会いに積極的であることもおすすめします。会社を設立して3年経ちますが、どのピースが欠けていても今の自分はいないと感じています。研究発表の場や、イベントに積極的に顔を出していくことで、きっと想像もしていなかった、新たな道が拓けていくと思いますよ。

PROFILE はらだ なおずみ 原田 直純 氏

ユナイテッド・イミュニティ株式会社 代表取締役
社長・最高技術責任者
三重大学大学院 医学系研究科 特任講師

1970年熊本県生まれ大阪育ち。2008年神戸大学大学院医学系研究科博士課程修了、博士(医学)。1996年から大手製薬企業やベンチャー企業の研究員としてがん創薬研究に従事し、がん免疫療法や分子標的薬の研究開発を推進。基礎研究から非臨床試験や製造法開発に至る責任者を担当。ベンチャー企業では開発計画・事業計画の立案、公的資金の獲得と運用、製品導出活動にも関わる。2014年から三重大学大学院医学系研究科特任講師。がん免疫療法開発ガイダンス(厚労省通知)の責任者の一人も務める。2017年に起業し、経営と研究開発、事業開発に追われる日々を送るが、これまでの経験を活かして画期的ながん治療薬の創製と実用化を生涯にわたり目指す覚悟でいる。



CASE 2

4人の得意分野を活かして、 今だからできる研究・ビジネスに 全力で挑みたい。

「Tongali」のビジネスプランコンテストで注目を集めた「青山大岳（あおやまだいがく）」の犬飼くん、福嶋くん、青島くん、山田くん。コンテスト応募に至る経緯から今後の展望まで語っていただいた。

—はじめに、ビジネスの軸となる研究について教えてください。

主に実験室で使用するレーザーゴーグルが研究テーマです。ビジネスプラン名は、「レーザーが見えるレーザー保護めがね〜NewtGoggle〜」。ゴーグルを装着する際に、“どこにレーザー光が来ているのか見えなくなってしまう”というジレンマを解決するため、電子デバイスの複合で生まれた新しいレーザーゴーグルの開発を行っています。

—“Tongali”のコンテスト応募のきっかけについて聞かせていただけますか？

僕たちはもともと、“卓越大学院プログラム^{*1}”という、名古屋大学の博士課程の研究生が参加しているプログラムで出会ったんです。「せっかくだから、このチームで挑戦できるビジネスコンテストは何かないかな」と探していたところ、“Tongali”の存在を知りました。数あるビジネスコンテストの中でも学生向けで、入賞すれば賞金がいただけるところが魅力でしたね。応募するテーマは悩みましたが、犬飼くんが発案したゴーグルが課題もはっきりしていたので、テーマに選びました。

*1：文部科学省が2018年に導入した、5年一貫の博士課程プログラム。海外の研究チームや産業界との共同研究を通して、化学と生命科学、エレクトロニクスと機械工学、医療と情報科学のように複数の専門が融合する領域の研究に携わります。

—実用化に向けて、準備はどのくらい進めていらっしゃいますか？

実際に使用していただくためにはまだまだ解決すべき課題があるので、今はそれを一つひとつクリアにしている段階です。「応用物理」「航空宇宙・流体力学」「電子工学」「機械理工学」と、4人それぞれの得意分野が異なるので、強みを活かして補いながら、ブラッシュアップを進めています。本格的にビジネス化するためには資金調達も必要になってくるので、新たなコンテストに参加して資金を確保することも視野に入れています。

—もともと起業に興味があったんでしょうか？

メンバーの間でも、起業に対する思いは様々でした。全体的には、“ビジネスとしてお金を稼ぎたい!”という気持ちよりも、“会社をやったら面白そうだな”とか、“学生のうちにいろいろな経験を積んでみたい!”という、挑戦したい気持ちの方が強かったかもしれません。せっかくチャレンジさせてもらえるなら全力でやりたい、という気持ちがひとつになった感じですね。

—今後起業をしてみたい!という学生さんに向けて、アドバイスをお願いします。また、今後の展望や意気込みを聞かせてください。

いざ起業するとなると、ビジネスプランやビジネスモデルの設計、収益計画など、今まで全く考えたことのない知識が必要になってきます。研究以外に必要な知識は、プログラムに応募して専門家の方に教えていただくなど、吸収できる方から学ぶと良いと思います。時には厳しい言葉をいただくこともありますが、改善できるところは素直に受け止めて、だけど研究したいテーマに向き合うことは忘れないでほしいですね。

僕たちもまだまだ発展途上ですが、“まず、やってみる”の気持ちを大切にしてい、このビジネスプランを形にできるよう頑張りたいと思います。そして今回のテーマ以外にも、身の回りで解決したい課題について、“自分ならどうするか”の視点を忘れずにいたいですね。そうすることで、新しいアイデアが湧いてくると信じています。



PROFILE あおやまだいがく 青山大岳

Tongaliの「ビジネスプランコンテスト2020」にて、優秀賞3位を受賞した名古屋大学大学院工学研究科の大学院生4人によるチーム。代表の犬飼くん、福嶋くん、青島くん、山田くんの名前の頭文字をとって「青山大岳」と名付けた。研究テーマは、「視界が変わらないレーザー保護めがね」。ビジネスコンテストなどにも積極的にチャレンジするなど、学生期間中の起業に向けて精力的に活動している。

受賞歴：
・NEDO TCP2020(Technology Commercialization Program)
審査員特別賞 受賞
・Japan Business Model Competition2021 3位 受賞

CASE 3

“家のない人”がいない世界をつくりたい。発想のちからで、豊かな社会へ。

わずか数時間で建てられる”インスタントハウス”を研究・開発した「LIFULL ArchiTech」代表・名古屋工業大学大学院工学研究科教授の北川さん。開発から起業に至るエピソードや、インスタントハウスを通して叶えたい世界観などについてお話を伺った。

—事業内容について教えてください。

インスタントハウスという、即席で作ることのできる家を販売しています。数時間で建てられるだけでなく、断熱性や遮音性も高いため、キャンプや屋外サウナ、別荘、簡易商業施設、避難所、東屋、屋外広告物としてなど、さまざまなシーンで活用いただける点が特徴です。現在は国内かつ企業の方のみに販売をしていますが、個人向けの販売や、海外への展開も見据えて準備を進めています。

—インスタントハウスを作るきっかけは何だったんですか？

大学で教員をしながら自身の研究も進めていた頃に、東日本大震災が起こったんです。新聞社の方から現地の避難所への同行依頼をいただき、仙台と石巻の避難所を見に行きました。石巻中学校にお邪魔した際、体育館に200人くらいが身を寄せていて、そこで子どもに言われたんです。「仮設住宅を建てるのに、どうして3、4ヶ月もかかるの？大学の先生だったら、明日にでも建ててよ!」。と。僕の中に衝撃が走りました。そこからもっと早く、そして簡単に、家を建てられる方法はないかと考えるようになったんです。あの出来事が、僕のインスタントハウス研究の原点です。

—実際の開発から販売まで、どのようなプロセスを経たんでしょうか？

現在の完成形になるまで、おおよそ4年ほど試行錯誤しました。風船、シャボン玉、ゴムボール、スポンジなど、ありとあらゆる素材を試した結果、ポン菓子からヒントを得て、これだ!と思うところまで進めることができたんです。そこで開発した手法で、2017年に特許を出願しました。そこから、実際に使っていただけるものか探りたいと思い、マーケティング調査をするため、ミラノサローネに出展しました。その際の反響が大きかったので、インスタントハウスは世の中に求められているものだと思ひ、販売すべきだと思うようになりました。ところが、大学で相談したら、教員としては販売ができないことがわかりました。それなら投資家やビジネスパートナーを探したらいいと考え、複数の会社さんや投資家の方々と話した結果、LIFULLさんの子会社として起業することを決めました。

—オファーがたくさんあった中で、子会社として起業するに至った決め手は何でしたか？

将来のビジョンが一致したことが大きいですね。僕にとってはインスタントハウスを世の中に広めることが最重要で、お金を儲けることには興味がなかったんです。そんな僕にとって、“100年先の豊かな社会をどう実現するか”という夢や目標を共有してくれるLIFULLさんなら、安心して仕事ができるだろうと感じました。それから、自分で起業をするよりも子会社化した方が、ビジネスに素人の私がてんやわんやするリスクを減らし研究に専念できる点もポイントでした。

—今インスタントハウスで、今後どんな世界にしていきたいですか？

世界にはまだまだ、家がなく危険や恐怖に追われている難民がたくさんいます。インスタントハウスでそんな方々の力となり、世界から家のない人をなくしたいです。実は僕の実家は和菓子屋で、子どもの頃から和菓子職人になるつもりで、両親や兄夫婦が季節ごとの和菓子を仕上げていく様子を見様見真似で間近で眺めていました。今は、急に移動しなければいけない難民向けに、放っておくと現地の動物や昆虫が消化してきれいに地球に還っていく“食べられるインスタントハウス”の開発も進めていて。この“お菓子の家”が実現したら、思わぬ形で、子どもの頃の夢も叶えられそうです。

—最後に、学生さんや起業を支援する方々へ一言いただけますか。

学生さんに対しては、世間一般の常識にとらわれず、あたかも未来の教科書を作っていくかのように、“今日現在の理想像を叶えるためにどうするか”、という視点で考えて欲しいなと思います。僕もそうですが、やりたいことや興味の先に、道は繋がっていると思います。それから企業の方や、投資をする立場の方には、ぜひもっと“面白いことにアンテナを立てる”ことをお願いしたいです。これからの時代を引っ張っていくようなアイデアを応援し、支援いただけたら、人種や国境に関係なく、他者のためを想った、もっと良い日本、そして世界になると信じています。

PROFILE

きたがわ けいすけ
北川 啓介 氏

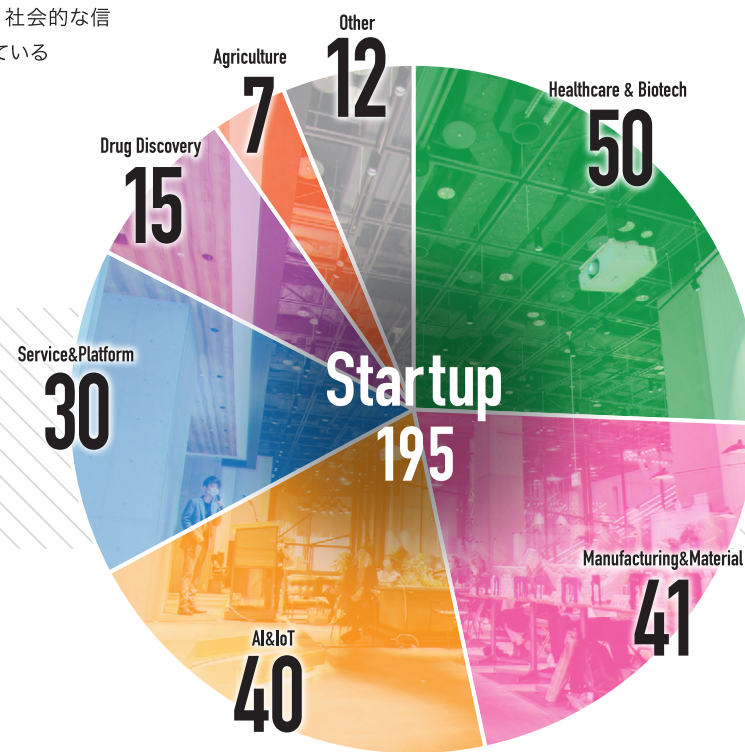
名古屋工業大学大学院工学研究科建築・デザイン分野 教授
株式会社LIFULL ArchiTech 代表取締役社長

1974年愛知県生まれ。1999年ニューヨークのReiser+Umemoto建築設計事務所にて建築設計に従事。2001年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。2018年から同大学教授。2017～2018年に米国プリンストン大学客員研究員。2019年から株式会社LIFULL ArchiTech(大学発ベンチャー)代表取締役社長。約20年の国内外での建築設計や建築教育の経験を経て、知財をもとにした未来志向の建築や都市を考案し、実用化した上での事業化を推進。建築の計画と構法の領域のプロフェッショナルであり、インスタントハウス技術の考案者。科学技術分野の文部科学大臣表彰などを受賞。



Knock-Knock STARTUPS

大学発スタートアップは、革新的な技術やビジネスモデルを基に、世界に向けた新しい価値の提供にチャレンジしている。それぞれの技術やビジネスモデルの未来への貢献を想像すると、右に示した数字以上の価値が見えてくる。また、社会的な信用の一つの指標として、大学発ベンチャー称号授与制度を設けている大学もある。ぜひ、東海地区発の“**とっきんとっきん**”な大学発スタートアップの扉をノックし、未来に繋がるビジネスを体感してほしい！



Service & Platform

サービス・プラットフォーム

合同会社Operation Technology Associates

サイバーセキュリティ演習・教育活動支援



クアドリティクス株式会社

医療機器の開発、ソフトウェアの開発及びデータ解析に関するコンサルティング業務等



高齢社会街づくり研究所株式会社

超高齢社会に対応する街づくりの実現に向けた企画コンサルタント事業



株式会社コネクティブ

Webシステム開発



ZAZA株式会社

料理を学びたい訪日旅行者と、料理を教えたい日本人ホストをオンラインで結ぶ「食」のシェアリングサービス



一般社団法人GEOASIA研究会

地盤総合解析プログラムGEOASIA®を用いた地盤工学に関する調査・設計及び技術開発・研究開発



株式会社Sonoligo

音楽・スポーツ・アートのイベント予約・参加情報をサブスクリプションにて提供するサービス運営



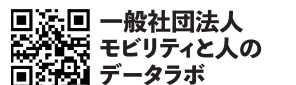
株式会社名古屋臨床薬理研究所

医工連携、産学連携のコーディネート事業



株式会社Harmony For

外国人留学生に特化した就職サポート・企業の採用支援事業、外国人留学生向けのライフサービス事業



一般社団法人モビリティと人のデータラボ

モビリティに関わる人間特性のデータベースの維持・管理・拡充及びデータを利用した研究開発の促進



株式会社LIFULL ArchiTech

グランピング設備材料・工法の研究開発



株式会社Lab316

アプリ・ソフトウェアの企画・販売・運営

合同会社エンターテイル

ITサービスの企画・販売・運営

AI & IoT

AI & IoT



株式会社Acompany

ブロックチェーン技術関連のプロダクト開発・研究開発・コンサルティング



AGREEBIT株式会社

合意形成支援システムの開発・提供



アメイジングデバイス株式会社

IoTデバイス・システムの研究開発・販売

株式会社エンセファロン

音源方向定位・同定装置の開発



株式会社オプティマインド

AIを活用したラストワンマイルのルート最適化クラウドサービスの開発・提供、最適化コンサルティング



OnClouds株式会社

ロボットプラットフォーム(RaaS PF)の開発、自律移動ナビゲーションの研究・開発



株式会社キスモ

予測根拠を説明可能な“Explainable AI”を用いたAIプロジェクトの事前検証やモデリング



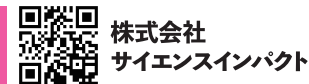
Craif株式会社

独自のデバイス開発とAIを活用したデータベースによる、がんの早期診断



有限会社来栖川電算

ソフトウェア開発



株式会社サイエンスインパクト

Webメディア運営等のIT事業、素粒子物理学研究の技術をベースとした放射線計測(宇宙線ラジオグラフィー)



株式会社CYPE Technology

実験機器、制御ソフトウェア、データ解析技術に関する機器販売、ソフトウェア販売・ライセンス等



ジークス株式会社

AIの研究開発・業務委託ソフトウェアの販売



株式会社SNAPSHOT

人事・経営領域のソフトウェアの開発、運送業ドライバー向け眠気探知サポートクラウドの提供



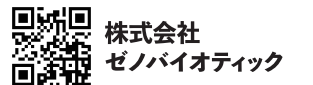
株式会社スペースビジョン

汎用型3次元カメラの開発・製造・販売



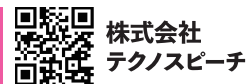
合同会社3Dragons

3D表示装置・計測装置の開発・販売



株式会社ゼノバイオテック

化合物毒性予測ソフトウェアの開発等



株式会社テクノスピーチ

音声合成・音声認識技術の研究開発



株式会社トライエッティング

生産業向けのAI(人工知能)ソリューションの企画・開発・運営・販売



株式会社ブレインフォー

自動運転用AI作成サービス受託開発、自動運転用データ収集車両の構築



株式会社ポットスチル

人と人工物間のインタラクションに関する技術開発と製品への応用



株式会社マップフォー

自動運転のための3次元地図の開発、走行データ計測、車両構築、システム開発

UTSテクノロジー株式会社

高齢者見守りピーコンシステムの実用化



有限会社ユビグラフ

ユビキタス関連ソフトウェアの開発・販売・コンサルティング及びユビキタス関連機器の開発・販売

株式会社Lukos

AI・IoT技術を利用したシステムの開発等

Agriculture

農業



グランドグリーン株式会社

異科接木技術を用いた農作物新品種の開発および接木自動化のための装置開発



株式会社TOWING

農業関連商品の企画、開発、調査、立案及び販売並びにそれらに関するコンサルティング等



株式会社フィットメトリクス

植物科学・農学におけるデータ取得・解析技術の受託開発やコンサルティング等



一般社団法人プラントオープンイノベーション推進機構

作物ゲノム育種などによって新たに創出された新系統について、その社会普及を目的とした種子の販売等



Lawin株式会社

食品の企画及びコンサルティング

Healthcare & Biotech

ヘルスケア・バイオテック



株式会社 iCorNet研究所

重症心不全患者に対するテラーメイド方式心臓サポートネット治療の事業化



株式会社 e-NA Biotec

拡散医療分野の創業等



NU-Medライフケア システムズ株式会社

医療、福祉、健康を支えるソフト・ハードウェアの研究開発・提供



NU-Rei株式会社

光技術プラズマ技術・真空技術・および情報技術等を用いた分析装置・半導体製造装置等の設計・製作・検査・販売



株式会社OVUS

ゲノム、遺伝子、染色体に関する検査、解析受託



ORTHOREBIRTH 株式会社

人工骨充填材の研究開発・製造販売

GRC株式会社

放射線診療、遠隔画像診断技術の開発等

株式会社GF・Mille

医薬品試薬、食品添加物の開発等



株式会社J-ARM

再生医療研究用の培養トレーニング、試薬類販売、機械類販売



株式会社シムス

手術ロボットと遠隔手術技術の開発、健康医療システムの開発・設計運営、自己医療およびABIに関する開発



ストレックス 株式会社

各種細胞への物理的刺激装置の開発・製造、システム設計・提案



株式会社セラノ スティック研究所

テラーメイド予防医療サービスの開発・提供



有限会社胎児生命 科学センター

遺伝性疾患の出生前診断



株式会社チャネロ サーチテクノロジー

創業研究及びイオンチャネル創業ツール販売と受託研究



Dアミノ酸ラボ 株式会社

D-アミノ酸、D-アミノ酸関連酵素並びにD-アミノ酸関連微生物の研究、製造及び販売



株式会社ハートビート サイエンスラボ

生体信号の計測、処理、解析事業



有限会社 ビコデバイス

皮膚ガス検出・測定器の開発・製造販売



株式会社 PREVENT

生活習慣病既往者向けのIT技術を介した健康づくり・重傷化予防事業



株式会社 フレンドマイクロブ

微生物を利用した廃棄物・排水の処理



株式会社ヘルスケア システムズ

郵送検査事業、バイオマーカー・検体検査技術の研究開発、機能性食品の研究開発



株式会社 Meis Technology

間葉系幹細胞破砕る液を用いた人・動物向け応用製品の開発・販売



メドリッジ株式会社

エンジニアリング技術(特にMEMSとロボット技術)を用いたメディカル業界向けデバイス開発・提供等



LaView株式会社

血管の弾性情報・血管拡張反応の情報を得る装置の研究・開発

Drug Discovery

創薬



iBody株式会社

研究・検査・診断向けまたは医薬向けの微量血液からのモノクローナル抗体の探索



OiDE OptoEye 株式会社

視覚再生のための遺伝子治療薬の開発



株式会社 オンコイムンセラテック

腫瘍溶解性ウイルスを用いた癌治療研究開発等



株式会社Craftide

タンパク質、ペプチドの化学合成による創薬



株式会社 D&P Labo.

機能性中分子ペプチドを中心とした創薬・医薬品開発



合同会社 BeCellBar

タイトジャンクション制御化合物を使った医薬・健康機能・美容成分の体内デリバリー技術の提供



MabGenesis 株式会社

医薬品領域(ヒト、動物)における抗体作製事業



レアバリエント株式会社

疾患ゲノムの解析によるスクリーニングプラットフォームの構築にむけた環境整備と関連技術の開発

Manufacturing&Material

ものづくり・素材



アイクリスタル 株式会社

結晶材料、半導体材料の研究・開発・製造・販売。AIを活用したコンサルティング



株式会社アロマビット シリコンセンサ テクノロジー

イオンイメージセンサを基盤とするニオイセンサの開発



APTJ株式会社

車載制御システム向けソフトウェアプラットフォーム(SPF)の開発、販売



NUProtein 株式会社

コムギ胚芽由来無細胞タンパク質合成試薬及びこれをもちいた有用タンパク質の製造・販売



シーズテクノ株式会社

カーボン等の電子・光材料の研究開発



SyncMOF 株式会社

新規多孔性材料の合成・製造・性能評価、新規多孔性材料性能評価装置の開発・販売



株式会社TARVO

リアルタイム音声変換技術を用いた、音声加工・変換の開発受託、音声加工ソフトウェアの開発・販売



超臨界技術センター 株式会社

超臨界二酸化炭素を用いた抽出技術の各種分野への応用事業(デカフェ事業など)



株式会社 日本中性子光学

光学素子、中性子計測用装置、超電導加速装置検査装置、放射線計測用装置の開発・販売



株式会社 BioCMOS

半導体集積回路の医療・環境分野への応用化に関する回路基板の設計・販売・コンサルティング



株式会社Photo electron Soul

既存技術と比べて性能・操作性において高い優位性をもつ電子ビーム発生装置及び素子の研究、開発、製造及び販売

株式会社フォトリック・エッジ

光学・電子デバイス、電気機械機器の開発等



株式会社U-MAP

AINウィスカーフィラー等の新材料とAIを駆使した加工技術による工業製品の研究・開発



Link T&B 株式会社

パワーエレクトロニクス機器の研究・開発・販売・技術コンサルティング

Other その他

株式会社アパード

パワエ分野の技術コンサルティング



株式会社コトワザ

建築アイテムのデザイン・プロデュース



株式会社産学官連携 エンジニアリングセンター

生産管理等の製造技術支援



株式会社 次世代耐震工学研究所

地震防災システム・教育ツール開発・販売



合同会社ROKA

商業デザインの企画・制作

Published

既刊情報

2020年3月発行

とっきんととっきん vol.1 特集「Future Design」

多岐にわたる分野で社会変革、新しい価値の創造をすすめる東海地区の大学発スタートアップにフューチャー。彼らが作り始めている「未来のデザイン」を一挙紹介する。



PDFデータはウェブサイトから閲覧できます。

<https://tongali.net/tokkin-tokkin/>



